



NPO法人越後妻有里山協働機構 のご紹介



Photo Yanagi Ayumi

第9回ディスカバー農山漁村（むら）の宝で特別賞のスポーツ連携賞を受賞したNPO法人越後妻有里山協働機構。地域の課題であった後継者不足による棚田の耕作放棄地化と、スポーツ業界の課題であった女子サッカー選手の練習環境不足やセカンドキャリアの新しいモデルを目指し、地域住民とともにサッカー選手が棚田保全の取組を行っています。

「まつだい棚田バンク」での棚田保全

まつだい棚田バンクは「大地の芸術祭」のプロジェクトとして発足しました。地域で深刻化していた過疎高齢化による棚田放棄を解決するため平成15年より活動を開始。全国から棚田オーナーを募り棚田の保全活動を行っています。また都市と地域のコミュニティの場を作る為に年3回棚田でのイベントを開催しています。令和4年度に開催された稲刈りイベントには約250名の参加者が松代地域に訪れ、交流を深めました。



棚田の保全面積も、発足当時10aに満たなかったところから、令和4年度は870a、筆数で約140筆にまで拡大しています。



新たな担い手 女子サッカーチーム「FC越後妻有」

平成27年に発足した農業×女子サッカー実業団。サッカーに励みながら農業の担い手不足に貢献し、地域の活性化を目指しています。

選手たちは、練習や試合をしながら、地域住民やNPOスタッフのサポートのもと、これまで関わりのなかった農業や芸術祭の運営業務に取り組んでいます。



Photo Yanagi Ayumi

作業を通じて地域住民との関わり合いの機会が生まれることで棚田保全だけでなく、地域のおじいちゃんおばあちゃんたちの張り合いにもなり、地域に明るさをもたらしています。

また、選手のほとんどは県外から越後妻有の風土や棚田の取組に共感して移住してきており、高齢化の進む地域の中で貴重な存在となっています。



Photo Tanaka Satomi



チームとしても、2020年に初参戦した新潟県女子サッカーリーグでは全勝優勝で昇格、2022年は北信越女子サッカー2部リーグを優勝し1部昇格を決めるなど、順調に成績を伸ばしています。地域住民みんなで応援し、地域の盛り上がりにもつながっています。



Photo Tanaka Satomi

越後妻有里山協働機構は、耕作放棄を食い止めるために今後も棚田オーナーを募るとともに、「FC越後妻有」と地域とのコミュニティをさらに盛り上げ、スポーツ選手業との連携による担い手不足の解消や地域活性化の成功事例として他地域のモデルとなることを目指しています。